

令和 6 年度

「運営に関する計画・自己評価(中間評価)」

大阪市立難波中学校

令和 6 年 10 月

目次

総括シート

● 学校運営の中期目標	3
● 中期目標の達成に向けた年度目標	4
● 本年度の自己評価結果の総括	5

目標別シート

最重要目標 1 安全・安心な教育の推進	6
● 取組内容 01【基本的な方向 1-2 不登校への対応】	6
● 取組内容 02【基本的な方向 1-3 問題行動への対応】	6
● 取組内容 03【基本的な方向 2-1 道徳教育の推進】	6
● 取組内容 04【基本的な方向 2-3 人権を尊重する教育の推進】	7
● 結果と分析、改善点	7
最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上	9
● 取組内容 05【基本的な方向 4-1 言語活動・理数教育の充実】	9
● 取組内容 06【基本的な方向 4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進】	9
● 取組内容 07【基本的な方向 5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進】	10
● 取組内容 08【基本的な方向 5-2 健康教育・食育の推進】	10
● 結果と分析、改善点	10
最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実	12
● 取組内容 09【基本的な方向 6-1 ICT を活用した教育の推進】	12
● 取組内容 10【基本的な方向 7-1 働き方改革の推進】	12
● 取組内容 11【基本的な方向 8-3 学校図書館の活性化】	13
● 取組内容 12【基本的な方向 9-1 教育コミュニティづくりの推進】	13
● 結果と分析、改善点	13

大阪市立難波中学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

現状

いじめ・虐待等については、教職員の理解も深まり、迅速な対応(認知、認定)へとつながっている。また、学校の規則について、社会通念上、合理的でないというルールを見直してきたが、まだ積極的に見直す部分もある。

生徒間での話し合い活動については学校全体で定着してきているが、しっかりとした「型」が全員一致で示されておらず、自分の考えを論理的に伝える力が弱く、深い学びにつながりにくい。これは、定期テストや授業観察からも見て取れる。「論理力」を身につけ、自分の考えや思いを論理的にかつ簡潔に相手に伝える力を、教員も生徒も習得する必要がある。

生徒の最善の利益を求めると同時に、「生きる力」を育み伸ばしていくため、教職員がそれぞれの長所を生かしながら、「毅然と対応する」・「丁寧に対応する」・「達成感を与える」・「我慢して見守る」・「失敗経験・成功体験を積ませる」必要があり、そのためには様々な体験を積ませたり、外部との連携を強め、地域総がかりの教育を進める必要がある。

課題

不登校傾向の生徒等に対する適切な支援について、その対応の方法や適切な人員の配置にかかる教職員の共通認識が必要である。また、スペシャルサポートルーム(SSR)の活用について、真に必要なとする生徒が安心して活用できるように使用方法や場所、教室利用の見直しなどが必要である。

家庭訪問や学習支援、保護者との関係づくりなど、地に足をつけた地道な取組は継続して実施する。また、「学校安心ルール」に基づいた問題行動の対応について連携し、毅然と対応し、生徒の安全・安心な学びの場の構築に努める。

教育活動のすべての場面において、論理力の向上を見据えた子ども達への関わり方を、全教員が意識して継続する必要がある。また、ICT 機器の活用を洗練し、不登校生徒への学習保障を、生徒には情報モラル情報リテラシーの向上を図る必要がある。生徒には教職員はグループウェア機能などの活用をさらに進める必要がある。

中期目標

安全・安心な教育の推進

◇ 全国学力・学習状況調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、令和 7 年度末に 82%以上にする。

➤ R3:75.2%、R4:80.0%、R5:76.0%、R6:84.6%

◇ 全国学力・学習状況調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、令和 7 年度末に 95%以上にする。

➤ R3:94.2%、R4:92.8%、R5:93.3%、R6:93.9%

◇ 全国学力・学習状況調査における「自分には、良いところがありますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、令和 7 年度末に 77%以上にする。

➤ R3:72.5%、R4:81.9%、R5:77.3%、R6:86.2%

未来を切り拓く学力・体力の向上

◇ 全国学力・学習状況調査における平均正答率の対全国比を、令和 7 年度末に国語・数学とも 1.00 以上にする。

➤ R3:国 0.94 数 0.96、R4:国 0.96 数 1.05、R5:国 0.92 数 0.92、R6:国 1.03 数 0.90

◇ 本市調査(大阪市英語力調査)における CEFR A1 レベル(英検 3 級)相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合(4 技能)を、令和 7 年度末に 56%以上にする。

➤ R3:52.6%、R4:48.2%、R5:45.0%、R6:**. **%

◇ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を、令和 7 年度末に男女と

も 1.01 以上にする。

➤ R3:男 0.99 女 0.99、R4:男 1.11 女 0.98、R5:男 0.95 女 0.89、R6:男**, *女**, *

学びを支える教育環境の充実

◇ 学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除き、授業日において学習者用端末を毎日使用する。

➤ R4:100%、R5:100%、R6:100%

◇ 「学校園における働き方改革推進プラン」における、教員の勤務時間の上限に関する基準 1・2 を満たす教職員の割合について、令和 7 年度末に大阪市平均以下にする。

➤ R4:基準 1…38.71%、基準 2…54.84%、R5:基準 1…31.03%、基準 2…55.17%

R6:基準 1…34.38%、基準 2…87.50%(8 月時点)

◇ 全国学力・学習状況調査における「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1 日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。(教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。)」に対して、読書時間が 30 分未満の生徒の割合を、令和 7 年度末に 65%未満にする。

➤ R3:76.9%、R4:67.2%、R5:72.1%

◇ 全国学力・学習状況調査における「今住んでいる地域の行事に参加している」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、令和 7 年度末に 50%以上にする。

➤ R3:27.0%、R4:29.1%、R5:28.0%

2 中期目標の達成に向けた年度目標

安全・安心な教育の推進

◇ 年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。

➤ 11.9%(8 月末時点) ※前年度 14.9% ※現時点達成

◇ 年度末の校内調査における「学校の規則を守っていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 97%以上にする。

➤ 97.6%(7 月末時点) ※現時点達成

◇ 年度末の校内調査における「将来の夢や目標をもっていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 78%以上にする。

➤ 71.2%(7 月末時点) ※現時点未達成

未来を切り拓く学力・体力の向上

◇ 中学生チャレンジテストにおける、国語の学力に課題の見られる生徒の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。

➤

◇ 中学生チャレンジテストにおける、数学の学力に課題の見られる生徒の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。

➤

◇ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における「1 週間の総運動時間」が 60 分未満の生徒の割合を 24%以下にする。

➤

学びを支える教育環境の充実

◇ 授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 70%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く)

➤ R5:--、R6:13.4%(8 月)

◇ ICT を効果的に校務や学習活動で有効に活用していると回答する教職員の割合を 75%以上にする。

➤ R5:77.7%、R6:87.1%(7 月)

◇ 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 75%以上にする。

➤ R5:77.8%、R6:15.8%(9 月)

◇ 年度末の校内調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 67%以上にする。

➤ R5:65.1%、R6:59.5%(7月)

3 本年度の自己評価結果の総括

本年度の学校運営全体を通じての成果

●

項目や取組の重点の置き方について

●

目標を達成できなかった項目に見られた課題について

●

成果を伸ばし課題を改善するために、次年度に向けて取り組むこと

●

大阪市立難波中学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
安全・安心な教育の推進	
◇ 年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。 ➤ 11.9%(8 月末時点) ※前年度 14.9% ※現時点達成 ◇ 年度末の校内調査における「学校の規則を守っていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 97%以上にする。 ➤ 97.6%(7 月末時点) ※現時点達成 ◇ 年度末の校内調査における「将来の夢や目標をもっていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 78%以上にする。 ➤ 71.2%(7 月末時点) ※現時点未達成	—

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容 01【基本的な方向 1-2 不登校への対応】	
● Hyper-QU の診断結果から教職員研修を実施し、生徒理解を深めるとともにきめ細かな対応にあたる。 ● 学習動画コンテンツ等を活用し、不登校傾向の生徒への学びを保証する。 ◇ 新たな不登校生の割合を 3%以下にする。 ➤ 2.1%(9 月末時点) ※現時点達成 ◇ 友達や先生に相談しやすいと回答する生徒の割合を 91%以上にする。 ➤ 88.8%(7 月末時点) ※現時点未達成	B
取組内容 02【基本的な方向 1-3 問題行動への対応】	
● 生活指導に積極的に取り組み、関係諸機関とも連携しながら、生徒を主体とした規範意識を醸成する。 ● 指導においては、全員が丁寧にかつ毅然と対応する。 ◇ 生徒の問題行動の件数を昨年度以下にする。 ➤ 6 件(1 学期末時点) ※昨年度 27 件 ※現時点達成 ◇ 学校へ行くことが楽しいと回答する生徒の割合を 83%以上にする。 ➤ 82.0%(7 月末時点) ※現時点未達成	B
取組内容 03【基本的な方向 2-1 道徳教育の推進】	
● 道徳教育に関する研究授業や相互参観、指導方法についての研修等を通して教員の授業力を高める。 ● 生徒の道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育成する。 ◇ 校内調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に最も肯定的な回答をする生徒の割合を昨年度より向上させる。 ➤ 84.4%(7 月末時点) ※昨年度 85.4% ※現時点未達成 ◇ 学期ごとに実施する生徒の意識調査において、年間を通して改善を図る。 ➤ **. *(1 学期末時点)	—

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容 04【基本的な方向 2-3 人権を尊重する教育の推進】 <ul style="list-style-type: none"> ● 地域や校区小学校等と連携し、地域を知り、地域から学び、様々な個別の人権課題についての理解と認識の深化充実を図る。 ● 教職員・PTA への人権教育研修を体系的に実施する。 ◇ 生命の大切さや人権について学んでいると強く回答する生徒の割合を 78%以上にする。 ➤ 73.2%(7 月末時点) ※現時点未達成 ◇ 全教職員が人権問題について正しく理解し、様々な立場にある生徒の理解に努める。 ➤ 100.0%(7 月末時点) ※現時点達成 	—

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
【基本的な方向 1-2 不登校への対応】 <ul style="list-style-type: none"> ● 不登校生に対し、家庭訪問や別室登校、スクールカウンセリングの案内など、個別のケースに合わせた対応を進めている。学習コンテンツの利用促進に関しては課題を残す。学習動画コンテンツ配信モデル事業や外国籍生徒向け授業動画を活用し改善を図る。
【基本的な方向 1-3 問題行動への対応】 <ul style="list-style-type: none"> ● 問題行動は昨年より減少傾向しているが、配慮を要する生徒同士のトラブルが多く、生徒・保護者の理解を得ながらの対応に苦慮している側面がある。
【基本的な方向 2-1 道徳教育の推進】 <ul style="list-style-type: none"> ● 学力向上支援事業を通して、研究授業・相互参観、指導方法についての研修を実施し、教員の授業力を高めるよう努めているが、生徒アンケートでは現段階では目標に届いていない。 ● 生徒の意識調査においては、教育センターの様式を活用するため、2 学期の実施となっている。
【基本的な方向 2-3 人権を尊重する教育の推進】 <ul style="list-style-type: none"> ● 区や地区の人権に関わる教育講演会や総会などで PTA への人権啓発を実施している。生徒には、地域の太鼓集団による歴史を学び伝統文化に触れる機会を 10 月下旬に計画している。 ● 教職員全体に必要な資質として、人権感覚の醸成、共感力とコミュニケーション力、公正さと公平さ、倫理的リーダーシップ、継続的な自己啓発が必要である。 ● 生徒に対しては、人権に関する知識の提供、多様性の理解を促進するプログラム、批判的思考の育成、相談しやすい環境整備、感受性や共感の育成を図る必要がある。

次年度(今後)への改善点
【基本的な方向 1-2 不登校への対応】 <ul style="list-style-type: none"> ● 学習動画コンテンツ配信モデル事業や外国籍生徒向け授業動画を活用し改善を図る。 ● 新たな不登校生徒を少なくするために、生徒向けのアンケートや教育相談を行うとともに、相談申告機能の活用を進め情報共有を行い、チームで対応を進める。
【基本的な方向 1-3 問題行動への対応】 <ul style="list-style-type: none"> ● 安心できる環境づくりのために、丁寧で毅然とした対応を継続すること、校則の見直し等、様々なことを生徒議会で検討して反映させる取組を推進する。
【基本的な方向 2-1 道徳教育の推進】 <ul style="list-style-type: none"> ● 互いに意見を尊重し、発言する際に他人を否定しないなど、話し合いを円滑に進めるためのルールを全体で共有し、自由に自分の意見を述べやすい環境を構築する。また、個人の知識や意見だけでなく、チームワークや協力を評価する仕組みを導入するなど、互いに助け合う姿勢を養う。
【基本的な方向 2-3 人権を尊重する教育の推進】

次年度(今後)への改善点
<ul style="list-style-type: none"> ● 教職員が、自らが人権を尊重するロールモデルとして、学校全体での人権尊重を推進するリーダーとしての役割を果たすべく、人権教育に関する最新の知識や教育方法を学びつつ、実践に反映させる姿勢を養っていく。

大阪市立難波中学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
未来を切り拓く学力・体力の向上 ◇ 中学生チャレンジテストにおける、国語の学力に課題の見られる生徒の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。 ➤ 1年**.*%、2年**.*%、3年**.*% ※前年度 1年 41.0%、2年 16.4%、3年 36.8% ◇ 中学生チャレンジテストにおける、数学の学力に課題の見られる生徒の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。 ➤ 1年**.*%、2年**.*%、3年**.*% ※前年度 1年 44.0%、2年 26.7%、3年 45.5% ◇ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における「1週間の総運動時間」が60分未満の生徒の割合を24%以下にする。 ➤	—

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容 05【基本的な方向 4-1 言語活動・理数教育の充実】 ● 生徒の論理力を身につける取組(R80)を全教科指導においてすすめる。実施場面においては、日々の授業のふり返りの場で実施し、記述や発言により継続して実施する。 ● すべての教育活動において、全教員が R80 を意識した説明や発問を行う。 ◇ 文章を書くことが得意だと回答する生徒の割合を 60%以上にする。 ➤ 62.0%(7月末時点) ※現時点達成 ◇ 論理的に簡潔に伝えることを意識している教員の割合を 90%以上にする。 ➤ 96.8%(7月末時点) ※現時点達成	B
取組内容 06【基本的な方向 4-2「主体的・対話的で深い学び」の推進】 ● 探究・読解プロジェクト等を通して産官学連携を実施し、生徒の主体性を引き出し、積極的に学びに向かう力やコミュニケーション能力を養う。 ● 校園別研究目標における各教科等の課題を理解し、全教員で研究に取り組む。 ● 生徒に失敗経験・成功体験を積ませ、達成感を与え、教員は我慢して見守ることを大切にするとともに、教員が失敗を恐れずに学び続ける姿勢を持ち続ける。 ◇ 話し合い活動を通じて、考えを深め、広げられていると強く感じる生徒の割合を 57%以上にする。 ➤ 44.4%(7月末時点) ※現時点未達成 ◇ 将来に夢や希望を持つ生徒の割合を 73%以上にする。 ➤ 71.2%(7月末時点) ※現時点未達成	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<div>取組内容 07【基本的な方向 5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進】</div> <ul style="list-style-type: none">● 授業や体育的行事、部活動を通じ、最善を尽くして運動する態度を養い、体力の向上と心身の調和的発達を図る。● 生涯にわたって運動に親しむ習慣を確立させ、健康の保持増進と体力向上を図る。◇ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点を、男子 40 点以上、女子 43 点以上にする。➤ 男**. *点、女**. *点◇ 運動やスポーツをすることが好きな生徒の割合を 81%以上にする。➤ 79.0%(7 月末時点) ※現時点未達成	—
<div>取組内容 08【基本的な方向 5-2 健康教育・食育の推進】</div> <ul style="list-style-type: none">● 毎週の安全点検、保健や健康、食育についての特別授業、昼食後の歯磨き指導を実施する。● 健康な食生活や食物アレルギー対応について周知し、生徒・家庭の健康や食への意識向上を図る。◇ 定期健康診断結果から要受診となった生徒の受診率を昨年度より向上させる。➤ 27.4%(8 月末時点) ※昨年度 29.4% ※現時点未達成◇ 規則正しい生活をしている生徒の割合を 78%以上にする。➤ R81.0%(7 月末時点) ※現時点達成	—

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
【基本的な方向 4-1 言語活動・理数教育の充実】
<ul style="list-style-type: none"> ● 教科活動や単元テスト、学年・学級活動の場面において、記述や発言によるアウトプットの機会を継続して設けている。全ての教員が論理的に説明や発問を行うことを心掛けながら実践を継続する必要がある。
【基本的な方向 4-2「主体的・対話的で深い学び」の推進】
<ul style="list-style-type: none"> ● 1 年生は e スポーツ、2・3 年生はバレーボールを通して探究・読解プロジェクトを進めている。どのようにして生徒の主体性や、学びに向かう力、コミュニケーション能力を養うか、試行錯誤しながら、教員も失敗を恐れずに学び続けようとする姿勢がみられる。 ● 各教科、学年、各領域では、さらに話し合い活動を充実させる必要がある。
【基本的な方向 5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進】
<ul style="list-style-type: none"> ● 部活動の地域移行などの話題が出てきている現在、クラブチームに所属する生徒や、部活動数がないために部に所属しない生徒も多い。全校生徒のうち、部活動の入部率は 71.0%である。授業においても、見学生徒がちらほら見られるなど、最善を尽くして運動する態度の育成に課題が見られる。 ● 生徒の意識調査(7 月実施)においては、目標値に届かなかった。
【基本的な方向 5-2 健康教育・食育の推進】
<ul style="list-style-type: none"> ● 受診率を項目別にみると、昨年度は項目別で、内科 0%、耳鼻科 45%、眼科 10%、視力 26%、尿 33%、歯科 32%、心臓 100%。今年度は現段階の項目別で、内科 0%、耳鼻科 27%、眼科 50%、視力 31%、尿 15%、歯科 14%、心臓 71%。

次年度(今後)への改善点
【基本的な方向 4-1 言語活動・理数教育の充実】 <ul style="list-style-type: none"> ● 発問をする際にも簡潔にわかりやすくする工夫を教員が意識した授業展開により、振り返りの場面だけでなく、生徒が考えや意見をまとめる機会を多く与え、また、そのフィードバックをしっかりと行っていく。
【基本的な方向 4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進】 <ul style="list-style-type: none"> ● 体験的な活動を充実させ、話し合い活動の場面では各々が意見を述べる機会を設け、R80 の取組を通して自分の意見をきちんと述べることのできる生徒を育成する。
【基本的な方向 5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進】 <ul style="list-style-type: none"> ● 生徒のフィットネスレベルを評価し、それに基づく達成可能な目標の設定、運動科学、スポーツ医学の知見を活用した効率的かつ安全なプログラムの提供を行うとともに、運動だけでなく、休息や栄養がいかに重要かを生徒に教え、過度な負荷を避ける。また、チームスポーツや協力が必要なアクティビティを通じて、つながりや協力の重要性を学ばせる。 ● 科学的なトレーニング技術と適切なフィードバックの与え方を学ぶ研修の機会を周知する。
【基本的な方向 5-2 健康教育・食育の推進】 <ul style="list-style-type: none"> ● 未受診生徒の内、すでに予約を取れている者もいるので、全体的な受診率は向上するものと思われる。引き続き保護者への受診勧奨を行う。

大阪市立難波中学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
学びを支える教育環境の充実 ◇ 授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 70% 以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く) ➤ 13.4%(8 月末時点) ※現時点未達成 ◇ ICT を効果的に校務や学習活動で有効に活用していると回答する教職員の割合を 75% 以上にする。 ➤ 87.1%(7 月末時点) ※現時点達成 ◇ 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 75%以上にする。 ➤ 15.8%(9 月末時点) ※現時点未達成 ◇ 年度末の校内調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 67%以上にする。 ➤ 59.5%(7 月末時点) ※現時点未達成	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容 09【基本的な方向 6-1 ICT を活用した教育の推進】 ● 授業にデジタル教材を活用した自学自習の習慣化を図るとともに、不登校や教室に入りづらい生徒の学習機会を保障する。 ● スマートスクール次世代学校支援事業で導入しているツールを活用し、生徒理解を深め、いじめ・不登校などの未然防止・早期発見・迅速な対応を実現する。 ◇ 生徒の ICT 活用を指導する教員の能力に対する肯定的な回答の割合を 80%以上にする。 ➤ 87.1%(7 月末時点) ※現時点達成 ◇ ICT 活用による生徒の悩み相談に迅速に対応する教員の割合を 100%にする。 ➤ 100.0%(7 月末時点) ※現時点達成	B
取組内容 10【基本的な方向 7-1 働き方改革の推進】 ● ゆとりの日や学校閉庁日の継続実施、時差勤務制度の活用や勤務時間の割振り変更等により、教職員が働きやすく、子ども達と関わる時間の確保に努める。 ● 欠席連絡アプリや AI 採点システム、グループウェア機能などの活用により、学校運営の効率化を継続する。 ● スクールサポートスタッフや部活動指導員の活用により、教職員の負担軽減を図る。 ◇ 勤務条件制度や配置スタッフを活用し、仕事と生活の調和を実現する教職員の割合を 80%以上にする。 ➤ 100.0%(9 月末時点) ※現時点達成 ◇ ICT の活用により、学校運営の効率化を感じる教員の割合を 70%以上にする。 ➤ 90.9%(9 月末時点) ※現時点達成	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容 11【基本的な方向 8-3 学校図書館の活性化】 <ul style="list-style-type: none">● 多様性や発達段階に応じた子どもの読書環境の整備・充実を図り、読書に親しむ生徒を育成する。● 地域人材やボランティアとの連携協力により、人と本、人と人をつなぐ場を拡大する。◇ 生徒の読書の興味について最も肯定的な回答の割合を 39%以上にする。➤ 30.7%(7 月末時点) ※現時点未達成◇ 全校生徒が読み聞かせに携わる機会を年間 8 回以上設ける。➤ 4 回(9 月末時点) ※今後 10～1 月の各月に実施予定 ※達成予定	—
取組内容 12【基本的な方向 9-1 教育コミュニティづくりの推進】 <ul style="list-style-type: none">● 学校運営についての保護者や地域住民への情報提供や、保護者や地域住民の参画による開かれた学校づくりを推進する。● 学校関係者の意向を反映し、学校関係者評価を通じて開かれた学校運営を推進する。◇ ホームページのアクセス数を 5200 件/月以上にする。➤ 6358.8 件/月(7 月末時点) ※現時点達成◇ 学校運営へ参画が進んだと感じる保護者の割合を 77%以上にする。➤ 66.3%(7 月末時点) ※現時点未達成	—

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
【基本的な方向 6-1 ICT を活用した教育の推進】
<ul style="list-style-type: none"> ● 7・8 月には、ICT 教育アシスタントや次世代サポーターからの、端末活用についての研修を実施した。また、年度当初よりも学習者用端末の利用率も伸びてきている。
【基本的な方向 7-1 働き方改革の推進】
<ul style="list-style-type: none"> ● 取組内容に示す制度の活用により一定の工夫はしているが、子ども達と関わる時間の確保については、会議の在り方を含め、様々なシステムやツールを理解し活用促進を図る必要がある。 ● 生活指導やケガの対応について、部活動指導員だけの指導体制では、難しいと感じる側面もある。
【基本的な方向 8-3 学校図書館の活性化】
<ul style="list-style-type: none"> ● 主幹学校司書を連携しながら読書環境の整備・充実は進んでいる。また元気アップやなにわ絵本の会などと協力した読み聞かせ、生徒による読み聞かせの機会は充実してきている。
【基本的な方向 9-1 教育コミュニティづくりの推進】
<ul style="list-style-type: none"> ● 日頃より子どもの見守りで地域による学校支援の取組を実施していただいているが、在校生の保護者の参加割合は低く、学校運営へ参画が進んだと感じる保護者の割合が目標値を下回っている。 ● 保護者参画型の学校イベントなども工夫し考える必要がある。また、地域のボランティアの積極的に取り入れ、地域の防災活動と連携した防災教育なども目標達成に有効と考える。また、学校協議会の中で、学校行事のアイデアを提案し実際の運営に関わることも有効ではないかと考える。

次年度(今後)への改善点
【基本的な方向 6-1 ICT を活用した教育の推進】 <ul style="list-style-type: none"> ● 今後も ICT 教育アシスタントや次世代サポーターと連携して、さらなる研修の実施、授業サポートを実施する。 ● 学習動画コンテンツ配信事業、外国籍生徒向けの授業動画の活用を進める。
【基本的な方向 7-1 働き方改革の推進】 <ul style="list-style-type: none"> ● 様々なシステムやツールの活用は推進しながらも、それに終始するのではなく、子どもに関わる重要な事案については、対面による情報共有や対応策を検討する会議を図る。 ● 大阪市部活動指針、部活動指導員の配置事業の趣旨を踏まえながらも、事故発生時の対応マニュアルに従い事故の未然防止に努め、部活動指導員と教員顧問が連携して関わっていく。
【基本的な方向 8-3 学校図書館の活性化】 <ul style="list-style-type: none"> ● 教科に関連する特集を組み、図書館の資料を活用する活動を教室と連携して進める。 ● 生徒が一定期間に読んだ本の数に応じて賞品や認定証を与えるなど、読書のモチベーションを高める活動を工夫する。また、紙の本に加えて、電子書籍やオーディオブックを提供し、様々な読書方法を体験できる機会を広げる。
【基本的な方向 9-1 教育コミュニティづくりの推進】 <ul style="list-style-type: none"> ● 地域社会で子どもの健全な成長発達を促す「教育コミュニティ」づくりを推進するため、学校や地域を拠点とした学習機会を維持継続させる。 ● 保護者参画型の学校イベントなどについて、PTA とも協議しながら検討を進める。